



市内最初の「まち協」として設立から10年 度島まち協のあゆみとこれから

市内で最初に立ち上がったNPO法人度島地区まちづくり運営協議会。今年で設立から10年の節目を迎えます。度島まち協では、限られた予算と人員で離島特有の課題に向き合いながら、さまざまな取り組みを進めてきました。これまでの取り組みとこれからについて伺いました。

Interview



度島地区まちづくり運営協議会
さかい ゆうじ
理事長 堺 勇二さん

NPO法人度島地区まちづくり運営協議会（以下、まち協）は、平成25年9月に設立され、今年で10年目を迎えます。平成26年度は15事業を実施し、延べ参加人数約6千人でしたが、令和3年度には31事業・延べ参加人数約1万2千人にまで増え、まち協の活動が島民に浸透してきていると感じます。

これまでの主な取り組みとして、島民の防災意識の向上を目的とした「度島防災まつり」や島民が集う新たな交流の場として「夏祭り」を開催したり、年末年始の帰省客を歓迎し、ねぎらいの気持ちを伝える「おかえりなさいイルミネーション」などを実施しました。島民の皆さんにも喜ばれている「月イチシリーズ」は、島内に無い「床屋」や「ヨガ」「カイロプラクティック」の事業者を招き実施して

います。また、次世代の担い手である中学生の意見を取り入れるために設立3年目から実施している「度島まちづくり塾」では、度島中学校の生徒と一緒にまちづくり計画を考えたり、観光ツアーの企画・誘致などを行いました。中学生の柔軟な発想で、大人では思いつかないようなアイデアが生まれています。まち協が立ち上がってから、自発的に団体を結成し、活動する島民も増えてきています。

これまでの活動をとらえて、度島の課題はもちろん、地域の宝も再発見できました。これからは島外の度島出身者を巻き込みながら、子どもから高齢者までいきいき暮らすことができ、離島のハンデイを感じさせない度島を目指して活動していきます。

特集

I am my City

みんなが主役のまちづくり

平成25年10月、立ち上がったばかりの度島地区まちづくり運営協議会で行われたワークショップの様子。各部会でまち歩きを行い、度島の課題と宝を洗い出し、まちづくりをスタートしました。



平戸市の人口は、市町村合併が行われた平成17年10月当時、約4万人でしたが、令和5年2月現在で約2万9千人にまで減少しています。

現在の地域運営の仕組みは、人口や経済が成長し続けていた時代に合せて定着してきたものですが、これからは、減少していく人口に対応した仕組みが必要となってきます。

人口減少や少子化、高齢化は、地域の課題に複雑に絡んでいます。人口減少によって人口密度が少なくなれば、これまで集落全体で管理できていた農地などの維持が難しくなるほか、公共交通や商店などの運営にも影響が出てきます。少子化が進むと学校の統廃合や地域の伝統文化などの継承も危ぶまれます。高齢化で平均年齢が上がると、これまで自治会が担ってきた役割の継続が困難になるかもしれません。

これらの状況を見据え、平戸市では市民と行政がお互いを理解し尊重しながら協力してまちづくりを進め、より良い地域社会を実現することを目的として、平成20年に「協働によるまちづくり指針」を策定しました。この指針により、まちづくり協議会が設立され、それぞれで地域課題の解決に取り組んでいます。



1_度島の防災について考えた「度島防災まつり」
2_島民の新たな交流の場となった夏祭り/3_冬の風物詩「おかえりなさいイルミネーション」/
4_「月イチ」シリーズの1つ「月イチマーケット」。

朝早くから島民で賑わう。

田平を未来へつないでいくきっかけに

住民目線でまちづくりを考える



「歩きながらごみ拾おうかい」や「ドローンスクール」、制服のリユース事業など、地域に根ざし特色ある取り組みを行っている田平まちづくり協議会。「つんのーでいっちょやるばい」をスローガンに地域の皆さんと一緒に、住民目線の取り組みを進めています。

Interview



田平まちづくり協議会
副会長 手島 りつ子さん

田平まちづくり協議会(以下、まち協)は、現在約50人の部会員が所属し、5つの部会に分かれて活動しています。主な事業として、田平町荻田地区に伝わる「荻田浮立」の保存・継承を目的として子どもたちを対象に実施した竹笛教室や、ごみ拾いをしながら地域の魅力を再発見する「歩きながらごみ拾おうかい」などがあります。また、制服のリユース事業や町内2カ所の滝周辺の環境整備なども行っています。この他、ドローン事業では、北松農業高校で県内の高校では初となるドローンスクールを開講したり、農薬散布の受託、空撮サービスなどを行っています。

これらの取り組みは、会員とあわせて地域の人から相談があった困りごとや、活動をとおりて感じた地域課題を解決しようと取り組んでいるものです。地域住民の困りごとに対して、住民目線で迅速に対応できるところが、まち協の強みだと感じています。

まち協の取り組みは、あくまできっかけづくりだと思っています。まち協の取り組みに、地域の皆さんが参加することで、田平のことを改めて考え、地域の先輩たちが守ってきた田平を次世代につないでいくきっかけになればと思います。

田平に住んでいる人は、皆がまち協の会員です。困りごとや「こんなことやってみよう」ということがあれば、ぜひまち協にご相談ください。一緒に課題解決に向けて取り組みましょう。これからも「つんのーでいっちょやるばい」をモットーに活動していきます。

世代を越えてまちを考える

若い世代の意見をまちづくりに



生月大橋のそばに事務所を構える山田・館浦地区まちづくり運営協議会。令和4年度から、これまで区長が務めていた執行部を若い世代の人に交代しました。これにより、新たな視点での取り組みも生まれてきており、世代を越えたまちづくりに取り組んでいます。

Interview



山田・館浦地区まちづくり運営協議会
理事長 西澤 安廣さん

これまで、NPO法人山田・館浦地区まちづくり運営協議会(以下、まち協)では、道路沿いなどの花の植栽や各地区の公園でのラジオ体操の開催、高齢者を対象とした移動支援、郷土料理を継承する「おごっつお祭り」などを行ってきました。冬のイルミネーションでは、地域の元船員の皆さんの技術に助けられています。

これまで支所や出張所に相談していた事をまち協に相談するという人も増え、地域の皆さんのまち協への理解が深まっているように思います。まち協の事務所がある「和く話交流館」は、お年寄りの皆さんがテレビを見たり、話に花を咲かせたりと憩いの場にもなっています。

令和4年度からは、若者の意見を取り入れようと、理事職に40〜50代

の人を取り入れられました。各部会での提案の視点が変わり、これまで無かったアイデアが生まれています。例えば、子ども育成部会が婚活を企画、また、長崎県婚活サポーターの認定を受け出会いの場を提供したり、未就学児へのサポートとしてV・ファレン長崎のサッカー教室を生月子ども園で開いたり、子どもや若い世代を対象とした企画が増えてきています。今後は、年配の皆さんが持つ技術や知識と若い世代の新しい発想をうまく繋ぎ合わせ、山田・館浦地区のさらなる活性化につなげていきたいと思っています。

また、仕事や子育て、家事で時間がないという、若い世代の人たちもまちづくりに関わることができるような仕組み作りを進めていきたいと思っています。



1_北松農業高校でドローンスクールを開講。/2_荻田浮立を次世代に残すため「竹笛教室」を開催。/3_仲良しの正副会長と事務局員。/4_旧田平町時代に町花であった椿。挿し木で苗を増やす取り組み。



1_多くのお年寄りが参加した「わくわく健康まつり」/2_おごっつお祭。レシピ集も作成した。/3_小中学生対象「わくわく交流バスツアー」。今年度は長崎大学を見学。/4_お年寄りの移動支援。公共交通機関で使えるチケットを配布。



平戸市まちづくり運営協議会一覧



大島村まちづくり運営協議会
電 話 ☎55-2522
所在地 大島村神浦373



度島地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎25-2501
所在地 度島町1656-3



生月地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎29-9080
所在地 生月町里免2968-3



山田・館浦地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎53-1550
所在地 生月町館浦148-11



田平まちづくり協議会 (田平支所3階)
電 話 ☎29-9008
所在地 田平町里免27-1



田助校区まちづくり運営協議会
電 話 ☎22-7166
所在地 大久保町1189-1



平戸まちづくり運営協議会
電 話 ☎22-7080
所在地 岩の上町1494



中野地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎22-7445
所在地 中野大久保町796-1



紐差小学校区まちづくり運営協議会
電 話 ☎29-9025
所在地 紐差町798-1-2F



根獅子・飯良まちづくり運営協議会
電 話 ☎22-7866
所在地 根獅子町892-1



中津良地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎22-7835
所在地 下中津良町632-1



津吉地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎27-0611
所在地 津吉町1212-1



志々伎地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎29-1510
所在地 志々伎町292-1



野子地区まちづくり運営協議会
電 話 ☎27-1613
所在地 野子町3035-1

I am my city 住民みんながまちづくりの一員

市内の小中学校区ごとに設立された14のまちづくり運営協議会。地域に密着し、地域の課題や宝を掘り起こしながら、まちづくりを進めています。その地域に住む皆さんがまちづくりを「他人事」ではなく「わがこと」として一緒に考え、できることから参加していくことが大切です。

住民による地域課題の解決に向けて

平戸市では、協働のまちづくりを推進するため、小中学校区を基本単位に市内14カ所に「まちづくり運営協議会（以下「まち協」）」を設置しています。まち協とは、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人たちが中心となつて組織し、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に行うことを目的とした団体です。まち協のような活動を行う団体は「地域運営組織」と呼ばれ、令和4年7月現在で、全国814自治体に6千を超える団体が設置されています。

まち協の取り組みで一番重要なのは「補完」という考え方です（図1）。人口減少に伴い人口構成が変化していく中で、自治会の機能や絆を維持していくための取り組みをまち協が実施していくことが大切です。

各まち協で多様な取り組み

平戸市では、「平戸市新しいコミュニティ組織規則」により、まち協組織を公に位置づけるとともに、まちづくり交付金などの支援制度を設けています。環境整備や防災・防犯、子育て支援のほか、各地域の特色に

合わせた補助制度の整備など、まち協が設置されたことで多様な取り組みが生まれています。

一方で、限られた人材に業務が集中しがちになったり、毎年事業を継続していく中で、取り組みがマンネリ化しないよう、その事業の取捨選択や改善に頭を悩ませている状況も見受けられます。

まちづくり活動は、その到達度を図る指標の設定が難しく、特に近年設立されたまち協は試行錯誤しながら取り組みを進めています。これからは先行事例となるまち協と情報を共有し、そのノウハウを生かしていく必要があります。

市内全域にまち協が設置され、さまざまな情報が蓄積されてきた今、改めて地域コミュニティと協議会のかかわりについてさらに深めていく時期にきています。

協働のまちづくりの目的は、地域コミュニティの再生を図ることであり、人と人のつながりを維持すること、将来にわたって安心安全に暮らせる町を実現していくことです。まち協においては、これまでの取り組みを振り返り、取り組んできた事業の成果を検証するほか、企画立案能力を高めていくことも考えてい

図1 集落の補完イメージ



ねばなりません。

わたしもまちの一員

自分が住んでいる町に対する誇りや愛着を「シビックプライド」といいます。ここで大切なのは、単に町への誇りや愛着があるというだけでなく、「自分はこの町を形作っている一員であり、より良い町にするために、まちづくり活動に関与している」という意識を持つということです。その意味で郷土愛とは異なる概念なのかもしれません。

町の一員であるたくさんの「I（私）」が集まり、「I am my city」（私がこの町を創っている）といえるような、共感を生み、人を呼び込むような地域コミュニティを地道に作り上げていきたいものです。地域に住む皆さんが、少しでもまち協の取り組みに関心を持ち、参加することが真のまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

